

令和4年度運輸安全マネジメント検証と対策

1.令和4年度検証

今年度は陸羽西線代行バスがはじまり車両故障、停車駅通過ミスなど毎日運行の中において様々な事象がありました。また新型コロナウイルスとの共存する中、車両感覚がまだつかめないせいか大型バスのミラーのひっかけの物損事故が2件、トンネル内のスノーシェルターに寄りすぎによる物損事故など構造上の特性の理解が十分でない中の事故が3件ありコロナウイルスの影響がこういったもろさを露呈し改めて乗務感覚を取り戻すための教育研修の実施が必要であることを認識させられました。目標では物損2件が実績4件、クレーム1件が1件、車両故障2件に対して4件と物損においては目標に到底及ばない結果となりました。人身事故はありませんでしたが物損による人身事故につながる可能性もあるため来年度は新型コロナウイルス5類への引き下げとなる中、今年度以上に稼働も上がるため、より車両感覚の取戻しと運行管理の強化徹底を図っていきたいと思います。

<令和4年度物損事故・車両故障内容>

- ① 車庫内での接触事故 751,938円
- ② ミラーの物損事故2件 916,245円
- ③ スノーシェルターとの物損事故 176,000円
- ④ 車両故障によるレッカーダイ4件 945,850円

<経費実績（令和4年度）>

車両システム（バス紀行）	396,000円
適性診断	16,800円
月一回の安全会議	40,000円
塩害車両修理	7,000,000円
新型コロナ対策	600,000円
健康診断	241,000円（年2回実施）
運行管理者・整備管理者講習	20,000円

2. 総論

- ① 連続運転がなく長年の継続した目標が今年度改善されたことは非常に良かった。
- ② 物損事故は 4 件であり目標の 2 件には届かなかった。
- ③ 車両故障が 4 件あり特に修学旅行の途中の車両故障はお客様に大変ご迷惑をかけた。
- ④ 安全会議はドライブレコ・ダーによるヒヤリハットの指導を非常に多く増やし、事故の分析ができフィードバックすることができたことはよかったです。
- ⑤ クレームの 1 件はごみ清掃であり、商品であるバスの清掃を再度指導していく。
- ⑥ 積極的に山形県バス協会の研修に参加するようし、乗務員のスキルアップに努めることができたように思う。
- ⑦ 乗務員と運行管理においては配車、運行管理を一人で行うように組織改正し、的確に対応できた。スムーズに乗務員との関係を構築できたと思う。
- ⑧ 高速道路協議会、日本バス協会の外部表彰、社内の表彰を増やし、乗務員のプロ意識を維持させる取り組みを積極的にしたことが非常に良かった。

3. 改善策

- ① 今年度目標は重大 0、物損 4 件→来年度目標は重大 0、物損 2 件の目標
- ② 事故ゼロは我々の最大目標であるため、1 件でも減らすよう安全会議をより多く開催し運行管理、手配、乗務員一同、事故ゼロに向かって業務の在り方を見直す。
(例：お客様からの最終コ・スをより早くもらい、乗務員により早く渡す。渡すことにより乗務員がより行程の打ち合わせができるため内勤と乗務員のミエクションの強化
→ラインワークスを活用し、修理点検の計画の可視化、共有。様々な情報の共有)
- ③ ドライブレコーダーによる活用をさらに増やしていきたい。
- ④ 安全会議をやらされるのではなく自分たちで会議を創っていくことが大切であり主体的に会議を開催し、経営者はサポートする役目に移行していきたい。
- ⑤ 塩害による修理は整備会社に 3 ヶ月、車検時にチェックするよう再依頼する。またエンジントラブルにならぬよう、点呼時に整備について細かく指導、確認する。

4 目標/数値

- (1) 重大人身事故（第一当事者） 0 件（4 年度 0 件）
- (2) (1) 以外の人身事故 0 件（4 年度 0 件）
- (3) 有責物損事故対前年 2 件（4 年度 4 件）
- (4) クレーム件数 1 件（4 年度 1 件）
- (5) 車両故障 2 件（4 年度 4 件）

5.予算案

- (1) 車両管理システム（バス紀行） 400, 000 円
- (2) 外部講師、月一回の安全会議 50, 000 円
- (3) 塩害による下回りの補強、シャシ塗装 7,000,000 円
- (4) 適性診断 30,000 円
- (5) 運行管理者・整備管理者講習 60, 000 円
- (6) 健康診断（2回）新規・脳ドック 500, 000 円
- (8) 新車購入（代替え）（大型2台（1台中古・1台新車、マイクロ1台） 70,000,000 円
- (9) ホームページリノベーション 300, 000 円

令和5年4月1日

安全統括者 池田 新